



沖縄のガマフヤー(ガマを掘る人)

具志堅隆松さん公開講演会の案内

テーマ:沖縄で、なぜ私は遺骨を掘り続けているのか

遺骨は沖縄戦の証言者―。ガマ(壕)の奥でうずくまる少年、正座して自決した住民、たこつぼ壕にくずおれた兵士の数々。30年間、沖縄戦の遺骨と戦争遺物を収集・記録してきた現代の「悼む人」である著者が語る沖縄戦の真実。著書『ぼくが遺骨を掘る人「ガマフヤー」になったわけ。―サトウキビの島は戦場だった』(合同出版、2012年)

日時:2016年11月16日(水)18:30~20:30

場所:立教大学(池袋キャンパス)太刀川記念館多目的ホール

◆具志堅隆松氏:1954年生まれ 現在、沖縄の社会活動に従事。28歳のとき遺骨収集にたずさわったことを機に、沖縄激戦地や住民らが身を潜めたガマ(壕)から遺骨を集め供養をはじめ。1983年遺骨収集ボランティア「ガマフヤー(ガマを掘る人の意)」を設立。開発・市街地化の進む沖縄で、市民と共に戦没者の遺骨収集をつづけている。沖縄戦犠牲者達の遺骨が現在に生きる私達に問いかけている意味を、一緒に考え、学んでみませんか。 (参加費は無料です。) 【主催】「戦争と福祉をみんなで考える会」

(後援)安全保障関連法に反対する立教人の会

2016年11月16日(水)公開講演会*主催「戦争と福祉をみんなで考える会」

【アクセス】池袋駅の西口から、徒歩10分程度です(立教小学校側の場所です。)池袋キャンパス内で、もし迷ったら、警備員さんか職員&学生に「太刀川記念館はどこでしょうか?」と気軽にお尋ね下さい。

